

福岡県居住者の「防災意識」に関する調査 【結果報告書】

2014年6月
株式会社ジーコム 生活行動研究所

1. 調査方法

弊社アンケートモニター「コムネット」登録者に対するインターネット調査

2. 調査対象

福岡県在住の20歳以上の男女

3. 調査時期

平成26年5月7日(水)～5月12日(月)

4. 調査規模

500サンプル

【標本構成】

■性	件数	構成比(%)
男性	250	50.0
女性	250	50.0
全体	500	100.0

■年代	件数	構成比(%)
20代	100	20.0
30代	100	20.0
40代	100	20.0
50代	100	20.0
60代以上	100	20.0
全体	500	100.0

■ライフステージ	件数	構成比(%)
未婚	149	29.8
既婚で子どもなし	48	9.6
既婚で小学生以下の子がいる	107	21.4
既婚で中学生以上の扶養をしている子がいる	74	14.8
既婚で扶養する子どもなし	122	24.4
全体	500	100.0

■世帯年収	件数	構成比(%)
200万円未満	62	12.7
200～300万円未満	69	14.1
300～400万円未満	79	16.2
400～500万円未満	61	12.5
500～600万円未満	65	13.3
600～700万円未満	48	9.8
700～800万円未満	33	6.8
800～900万円未満	18	3.7
900～1000万円未満	24	4.9
1000～1500万円未満	25	5.1
1500万円以上	4	0.8
全体	488	100.0

* 学生を除く

■居住地	件数	構成比(%)
福岡市	271	54.2
福岡市以外の都市圏	109	21.8
その他の福岡県内	120	24.0
全体	500	100.0

■職業	件数	構成比(%)
会社員	148	29.6
公務員	19	3.8
団体職員	11	2.2
会社役員	3	0.6
派遣社員・契約社員	33	6.6
商工自営	14	2.8
農林漁業	1	0.2
自営手伝い	8	1.6
自由業	13	2.6
学生	12	2.4
パート・アルバイト	77	15.4
主婦(主夫)専業	109	21.8
無職	46	9.2
その他	6	1.2
全体	500	100.0

【報告書の見方】

- 本文及び図中に示した調査結果の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100.0%とならない場合や合計値に誤差が生じる場合がある。
- 複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- 報告書中の図表では、コンピューター入力の都合上、回答選択肢の表現を短縮している場合がある。

1. 防災意識の変化

東日本大震災発生直後と比べて防災意識が薄れている層は約2割。

東日本大震災発生直後と比べて防災意識の変化は、「意識が高まった」が32.8%、「意識は変わらない」が46.2%、「意識が薄れている」が21.0%である。

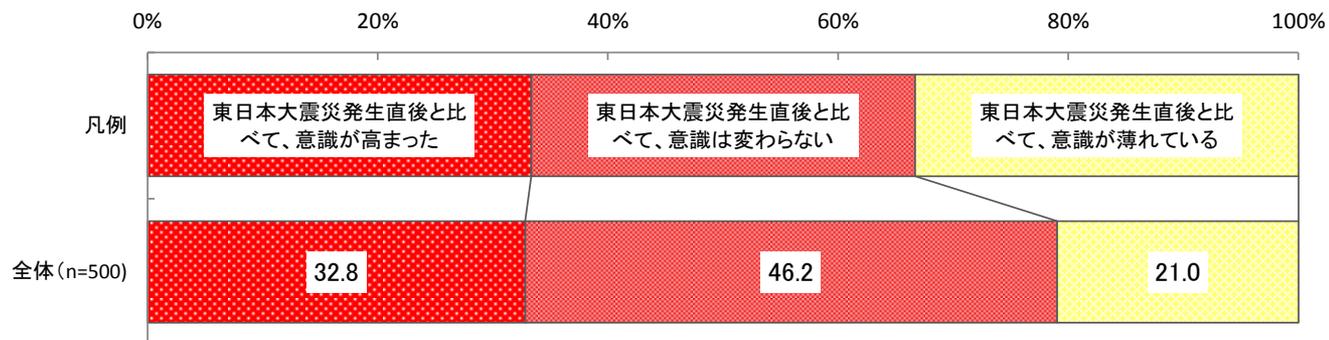
<性別>

・性別で大きな変化は見られない。

<年代別>

・50・60代で「意識が高まった」の割合がやや高くなっている。

◆防災に対する意識の変化【単一回答】



【%】

		調査数	東日本大震災発生直後と比べて意識が高まった	東日本大震災発生直後と比べて意識は変わらない	東日本大震災発生直後と比べて意識が薄れている
合計		500	32.8	46.2	21.0
性別	男性	250	32.0	47.6	20.4
	女性	250	33.6	44.8	21.6
年代別	20代	100	30.0	51.0	19.0
	30代	100	33.0	45.0	22.0
	40代	100	25.0	52.0	23.0
	50代	100	39.0	38.0	23.0
	60代以上	100	37.0	45.0	18.0

自然災害について家族や身近な人と「話をしていない」のは全体で約4割で、20代では5割を超えている。

この1年間で家族や身近な人と自然災害について話し合ったことは、「避難の方法や避難場所について」28.6%、「食料・飲料水の備えについて」26.4%、「災害発生時の心構えについて」24.2%の順であるが、「話はしていない」も38.2%にのぼる。

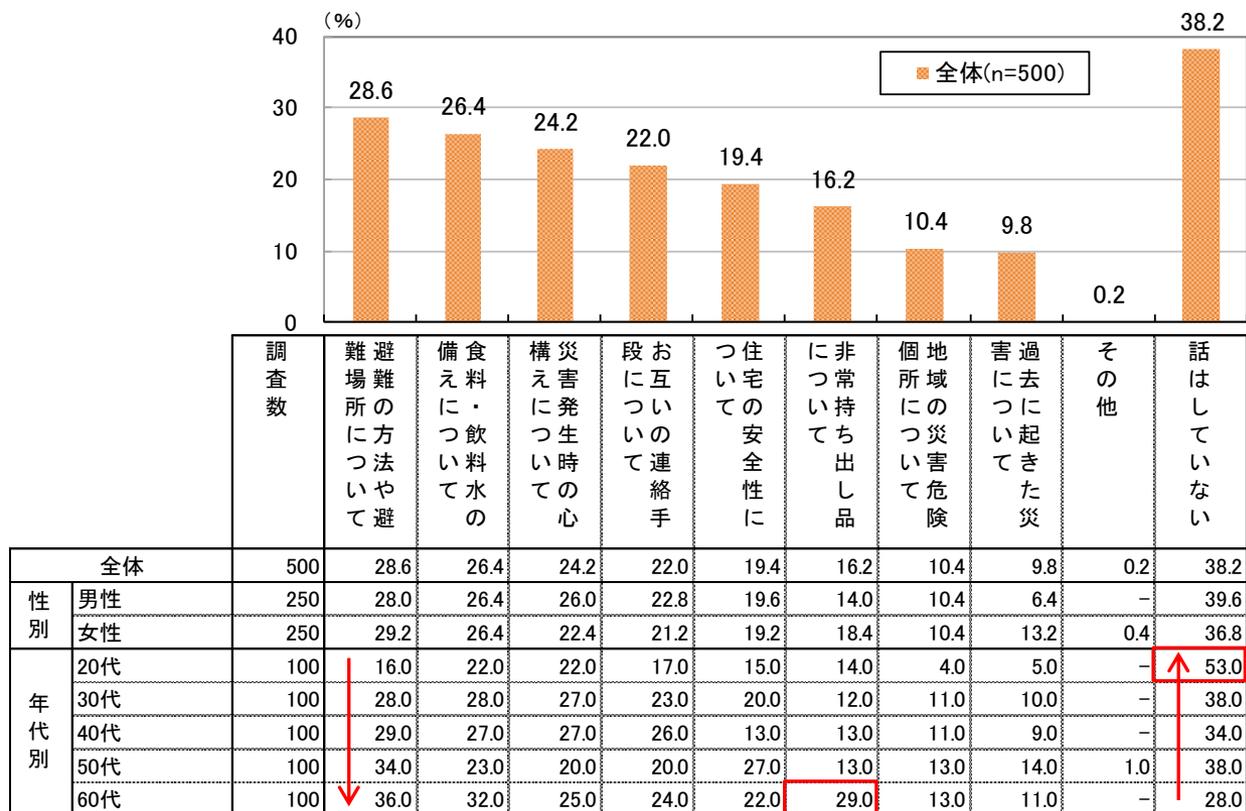
<性別>

・性別で大きな違いは見られない。

<年代別>

・年代が上がるにつれて「避難の方法や避難場所について」の割合が高くなっている。また、60代以上は他の年代に比べて「非常持ち出し品について」の割合が高い。「話をしていない」は年齢が下がるにつれて割合が高くなっており、20代では5割を超えている。

◆自然災害について家族や身近な人と話し合ったこと【複数回答】



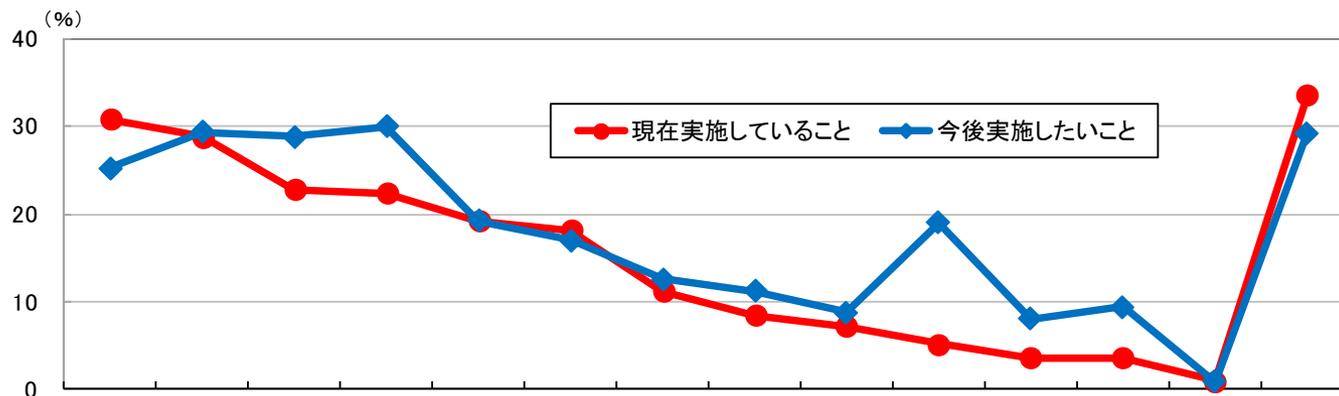
3. 自然災害に対する準備・対策

自然災害への準備・対策で現在実施している割合が高いのは「携帯ラジオ・懐中電灯・医薬品の準備」「水や食料を備蓄」など。現在実施していることと今後実施したいことのギャップが大きいのは「持ち出し用衣類・毛布などを準備」。

自然災害に対する準備・対策で現在実施していることの上位項目は、「携帯ラジオ・懐中電灯・医薬品などを準備」「水や食料品を備蓄」「家族と集まる場所」「災害時の家族との連絡方法」の順である。一方、今後実施したいことは、「災害時の家族との連絡方法」「水や食料品を備蓄」「家族と集まる場所」「携帯ラジオ・懐中電灯・医薬品などを準備」の順である。

両者を比較すると、「持ち出し用衣類・毛布などを準備」は、現在実施率は低い在今后実施したい割合が高くなっている。

◆ 自然災害に対する準備・対策【複数回答】



調査数	備灯携 して・帯ラ ている 薬品 などを 準備 する	水や食 料品を 備蓄し る	家族と 集まる 場所を 決めて いる	災害時 の家族 との連 絡方法 を決め ている	災害時 の家族 との連 絡方法 を決め ている	防具の 転倒、 落下を 防ぐよ うに工 夫して いる	避難場 所とそ こまで の経路 を知っ ている	自治体 のハザ ード内 容を確 認して いる	風呂や バケツ に水を 貯め置 きして いる	防災訓 練に参 加して いる	布など を準備 してい る	持ち出 し用衣 類・毛 布など を準備 してい る	ガソリ ンや常 に心掛 けよう にする	自宅の 修繕、 補強を 行っ ている	その他	特 に な い
現在実施していること	500	30.8	28.8	22.8	22.4	19.2	18.2	11.2	8.4	7.2	5.2	3.6	3.6	1.0	33.6	
今後実施したいこと	500	25.2	29.4	28.8	30.0	19.2	17.0	12.6	11.2	8.8	19.0	8.0	9.4	0.8	29.2	

<性別>

・現在実施している準備・対策について性別に見ると、女性は男性に比べて「水や食料品を備蓄している」の割合が高い。

<年代別>

・60代以上は50代以下に比べて「携帯ラジオ・懐中電灯・医薬品などを準備している」「水や食料品を備蓄している」の割合が高い。また、40代は「避難場所とそこまでの経路を知っている」の割合が高くなっている。

◆現在実施している自然災害に対する準備・対策【複数回答】

		調査数	携帯ラジオ・懐中電灯・医薬品などを準備している	水や食料品を備蓄している	家族と集まる場所を決めている	災害時の家族との連絡方法を決めている	家具の転倒、落下を防ぐように工夫している	避難場所とそこまでの経路を知っている	自治体のハザードマップの内容を確認している	風呂やバケツに水を貯め置きしている	防災訓練に参加している	持ち出し用衣類・毛布などを準備している	ガソリンは常に満タンにするよう心掛けている	自宅の修繕、補強を行っている	その他	【%】 特 に な い
全体		500	30.8	28.8	22.8	22.4	19.2	18.2	11.2	8.4	7.2	5.2	3.6	3.6	1.0	33.6
性別	男性	250	28.4	24.0	21.2	21.6	16.8	15.6	9.6	5.2	7.6	6.4	2.0	3.2	1.2	39.6
	女性	250	33.2	33.6	24.4	23.2	21.6	20.8	12.8	11.6	6.8	4.0	5.2	4.0	0.8	27.6
年代別	20代	100	14.0	15.0	14.0	18.0	12.0	8.0	7.0	1.0	2.0	3.0	1.0	2.0	-	56.0
	30代	100	27.0	31.0	27.0	21.0	17.0	18.0	10.0	4.0	5.0	6.0	4.0	4.0	2.0	31.0
	40代	100	36.0	31.0	25.0	25.0	21.0	28.0	11.0	10.0	10.0	11.0	3.0	2.0	-	26.0
	50代	100	30.0	29.0	20.0	24.0	25.0	19.0	16.0	11.0	7.0	2.0	3.0	4.0	2.0	33.0
	60代	100	47.0	38.0	28.0	24.0	21.0	18.0	12.0	16.0	12.0	4.0	7.0	6.0	1.0	22.0

4. 災害に備えてストックしている非常食

災害に備えて食品や飲料水をストックしているのは約半数。20代では何もストックしていない層が6割にのぼる。

災害に備えて家庭でストックしている非常食は「飲料水」の割合が38.2%で最も高く、次いで「インスタント食品」26.0%、「缶詰」25.6%、「レトルト食品」22.4%の順である。一方で、「ストックしていない」の割合が46.0%にのぼる

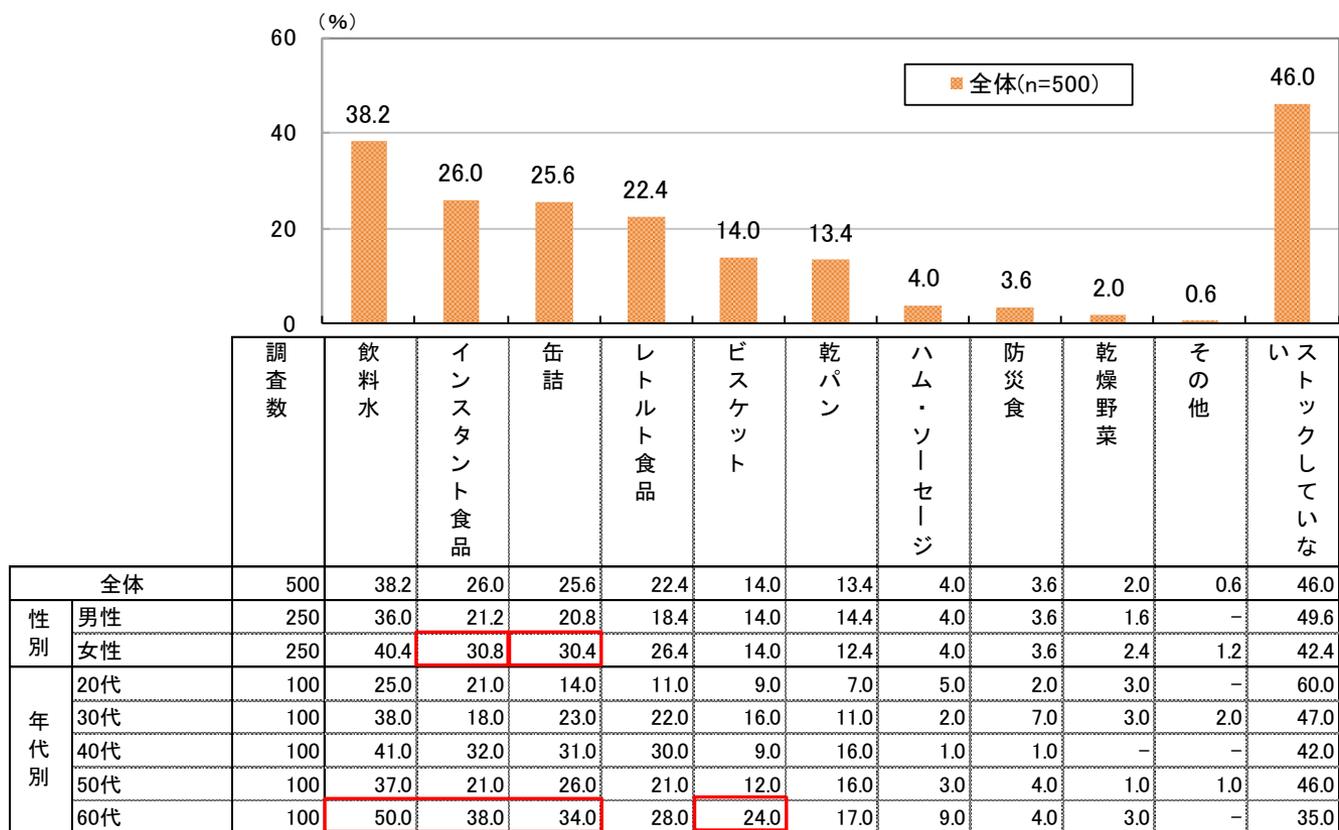
<性別>

・女性は男性に比べて「インスタント食品」「缶詰」の割合が高い。

<年代別>

・60代は50代以下に比べて「飲料水」「インスタント食品」「缶詰」「ビスケット」の割合が高い。20代ではストックしていない層が6割にのぼる。

◆災害に備えて家庭でストックしている非常食【複数回答】



発行元：株式会社ジーコム 生活行動研究所

福岡市博多区古門戸町2番4号 KSコモンドビル4F

TEL 092-283-2085

FAX 092-262-6110

URL : <http://www.gcom-net.co.jp/>

E-mail : inq@gcom-net.co.jp